

別表第 1 直接測定による出来形管理

工種	項目	管理基準値(mm)	(参考)規格値(mm)	測定基準	
1 共通 工事	掘削	基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	線的なものについては 施工延長おおむね 50m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
		幅(W)	基準幅、小段幅等 ⊕ 300 ⊖ 100	⊖ 150	
		法長(L)	法長 5 m未満 ⊕ 125 " 5 m以上 ⊕ 2.5%	⊖ 200 ⊖ 4%	
		施工延長		⊖ 200	
	盛土	基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	上記と同一。
		幅(W)	天端幅、小段幅等 ⊕ 300 ⊖ 100	⊖ 150	
		法長(L)	法長 5 m未満 ⊕ 65 " 5 m以上 ⊕ 1.3%	⊖ 100 ⊖ 2%	
		施工延長		⊖ 200	

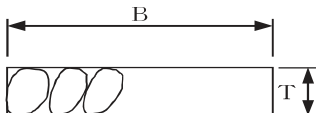
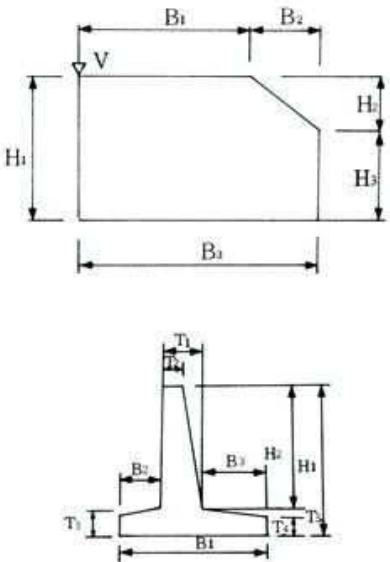
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 法長で20点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの	左記のもの で箇所単位 のもの		
同 上	同 上	同 上		余盛を指定した場合は余盛計画高により管理する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、厚さ、法長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの及び施工延長		<p>基礎コンクリートは 91 コンクリート基礎を適用する。</p> <p>法長の1%とは、山と谷の差の絶対値をいう。</p>
—	基準高、偏心。 なお、別に支持力を示したものについては、杭打ち成績表(様式4)による。	—	$e = \sqrt{x^2 + y^2}$	場所打杭とは、オールケーシング工法、リバース工法、アースドリル工法とする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共通 工事	矢板打工 (矢板護岸を 含む)	基準高(V)	± 30	± 45	線的なものについては施工延長おおむね20mにつき1箇所割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		中心線のズレ(e)	± 65	± 100	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖200	
	オープンケー ソン	基準高(V)	± 65	± 100	構造図の寸法標示箇所を測定する。 幅、厚さ、長さについては1ロット毎に測定する。
		幅(B)	± 30	⊖ 50	
		厚さ(T)	± 13	⊖ 20	
		高さ(H)	± 65	⊖ 100	
		長さ(L)	± 30	⊖ 50	
		偏位(e)	200	300	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレで20点以上で20点未満のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	左記のもので箇所単位のもの		中心線のズレは中心線より右を⊕左を⊖とする。指定仮設は基準高等が明記されたもの。
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ、偏位		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	栗石基礎 砕石基礎 砂基礎 均しコンクリート	幅(B)	栗石基礎、砕石基礎 ⊖ 130 砂基礎、均しコンクリート ⊖ 65	⊖ 200 ⊖ 100	線的なものについては 施工延長おおむね50m につき1箇所割合で 測定する。 上記未満は2箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
		厚さ(T)	栗石基礎、砕石基礎、 砂基礎 ⊖ 30 均しコンクリート ⊖ 13	⊖ 50 ⊖ 20	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 50m 未満 ⊖ 100	
	コンクリート 付帯構造物 コンクリート 基礎 コンクリート 側溝 コンクリート 管渠 横断構造物 コンクリート 擁壁 その他上記に 準ずるもの	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 45	線的な構造物につい ては施工延長おおむね 20 mにつき1箇所の割合 で測定する。 上記未満は2箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
		幅(B)	⊕ 20	⊖ 30	
		厚さ(T)	部材厚 30cm未満 ⊕ 15 ⊖ 13 " 30cm以上 ⊕ 20 ⊖ 15	⊖ 20 ⊖ 25	
		高さ(H)	2m未満 ⊕ 20 2m以上 ⊕ 30	⊖ 30 ⊖ 45	
		施工延長 (又は長さ)		⊖ 0.1%、 ただし延長 2m未満 ⊖ 30 10m " ⊖ 50 50m " ⊖ 100 200m " ⊖ 200	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	重要構造物の基礎のみ及び施工延長	左記のもので箇所単位のもの		管水路の基礎は「8 管水路工事の管体基礎工(砂基礎等)」による。
基準高、幅、厚さ、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの又は構造図に朱記、併記することが困難なもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	精度を要する もの 分水工計量部 ゲート戸当部 橋台沓部	基準高(V)	± 15	± 20	構造図の寸法標示箇所 を測定する。
		幅(B)	± 7	± 10	
		厚さ(T)	± 13	± 20	
		高さ(H)	± 7	± 10	
		長さ(L)	± 7	± 10	
	U 字溝 U字フリューム ベンチフリューム	基準高(V)	± 25	± 40	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。
		中心線の ズレ(e)	± 30	± 50	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
	土水路	基準高(V)	指定したとき ± 65	± 100	上記と同一。
		幅(B)	± 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		高さ(H)	指定したとき ± 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 400	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ	<p>A technical drawing of a pipe cross-section. It shows a rectangular pipe with a central hole. Dimensions are labeled: B_1 (total width), B_2 (width of the hole), T_1 (top thickness), T_2 (bottom thickness), v (hole diameter), H_1 (total height), H_2 (height from bottom to hole center), and H_3 (height from top to hole center).</p>	
基準高、中心線のズレで20点未満のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>A technical drawing of a U-shaped pipe cross-section. A vertical dashed line represents the center line, labeled V. The offset from the center line to the inner edge of the top flange is labeled e. The top flange thickness is labeled ζ.</p>	
基準高、幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>A technical drawing of a trapezoidal pipe cross-section. A vertical dashed line represents the center line, labeled V. The top width is labeled B_1, the bottom width is labeled B_2, and the height is labeled H. The top flange thickness is labeled ζ.</p>	

工種	項目	管理基準値(mm)	(参考)規格値(mm)	測定基準
1 共通 工事	鉄筋組立 かぶり(t)		⊕φかつ最小かぶり以上 φ：鉄筋径	測定箇所標準図による。 1スパン(1打設ブロック)毎に測定する。
		中心間隔(b)	⊕φ φ：鉄筋径	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-6)	構造図に朱記、併記するもの		
—	○	—	<p>鉄筋のかぶり(t)の測定位置(ボックスカルバートの例)</p>	1面当たり4箇所程度測定する。同一鉄筋上での測定は行わない。
			<p>中心間隔(b)の測定位置(ボックスカルバートの例)</p>	1面当たり鉄筋10本程度の間隔を測定する。測定箇所は、スパン毎に同じ位置とならないように測定する。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
2 ほ 場 整 備 工 事	表土扱い	厚さ(T)	⊕ 20% ⊖ 15%	⊖ 20%	10a 当たり 3 点以上。 (標高差測定又はつぼ掘りによる)
	基盤造成 表土整地	基準高(V)	指定したとき ⊕ 100	⊕ 150	10a 当たり 3 点以上。 (標高測定する)
		均平度 (◇)	⊕ 35	⊕ 50	
	畦畔復旧	幅(B)	⊕100 ⊖ 35	⊖ 50	施工延長おおむね200m につき 1 箇所割合で 測定する。 施工延長を示さない場 合は、1 耕区につき 1 箇 所割合で測定する。
		高さ(H)	⊕100 ⊖ 35	⊖ 50	
	道路工 (砂利道)	幅(B)	⊕ 150 ⊖ 100	⊖ 150	幹線道路は、施工延長 50mにつき 1 箇所割合 で測定する。
		厚さ(T)	⊕ 30	⊖ 45	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 400	支線道路は、施工延長お おむね 200m につき 1 箇所割合で測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
基準高、均平度で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		<ol style="list-style-type: none"> 1 基準高は、基盤面の高さとする。 2 均平度は表土埋戻後に測定する。
幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		舗装を行うときは、「4 農道工事」を適用する。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
3 農 用 地 造 成 工 事	耕起深耕	耕起深(T)	果樹 ⊖ 50 野菜 ⊖ 10	⊖ 75 ⊖ 15	おおむね ha 当たり 10 箇所測定するほか、つぼ 掘り 2 箇所/ha。
	テラス (階段畑)	幅(B ₁)	指定したとき ⊕300 ⊖100	⊖ 150	テラス延長おおむね 100m当たり 1 箇所測定 する。
		耕起幅 (B ₂)	指定したとき ⊕ 100	⊖ 150	
		側溝幅 (B ₃)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		側溝高さ (H)	指定したとき ⊕ 100 ⊖50	⊖ 75	
		法勾配(S)	指定したとき ⊕.2分 ⊖ 1分		
	道路工 (耕作道)	幅(B)	⊕ 150 ⊖ 100	⊖ 150	施工延長おおむね 100 m 当たり 1 箇所測定す る。
		厚さ(T)	⊕. 30	⊖ 45	
		側溝幅(b)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		側溝高さ (H)	指定したとき ⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
	土壌改良	pH測定	指定したとき ⊕. 0.35	⊕ 0.5	おおむね 50a 当たり 1 箇所(深さ 15 cm)改良材 散布後 2 週間以上経過 して測定する。(試験方 法…ガラス電極法…46 農地C第 311 号参照)

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
耕起深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、耕起幅、側溝幅、側溝高さ、法勾配で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、厚さ、側溝幅、側溝高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
pH測定で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		地表から15 cmの土壌を柱状に採取し、良く混合する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、法 勾配で 20 点 以上のもの	左記のもの で 20 点未満 のもの	—		切土部のみ対象とする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
4 舗 装 工 事 ・ 道 路	路盤工	基準高(V)	下層路盤 ⊕ 30	⊕ 50	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		幅(B)	⊕ 50 ⊖ 35	⊖ 50	
		厚さ(T)	下層路盤 ⊕ 30 上層路盤 ⊕ 20	下層 ⊖ 50 上層 ⊖ 30	
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65)	⊕ 100	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 100	
改 良 工 事	コンクリート 舗装工	幅(B)	⊕ 30 ⊖ 20	⊖ 30	幅、中心線のズレについ ては施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所割合 で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 厚さはおおむね 500 m ² に 1 個の割合でコアを 取りコア又はコアホー ルにより測定する。
	アスファルト 舗装工	厚さ(T)	コンクリート舗装) ⊕ 10 ⊖ 6.5 アスファルト舗装) 各層 ⊕ 10 ⊖ 6.5 全層 ⊕ 15 ⊖ 10	⊖ 10) ⊖ 10 ⊖ 15	
	中心線の ズレ(e)	⊕ 35	⊕ 50		
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
	平坦性(F)		As 舗装 3mプロフィル メータ標準偏差 σ = 2.4 mm以内 直読式標準偏差 σ = 1.75 mm以内 Co 舗装 標準偏差 σ = 2.0 mm以内	平坦性は 1 車線につき 1 測線全延長中心線に 平行に測定する。	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		
幅、厚さ、中心線のズレで20点以上のもの 平坦性は舗装調査・試験法便覧による	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>Tと(T)は、ちどりにコア採取 ◇は、コア採取位置</p>	

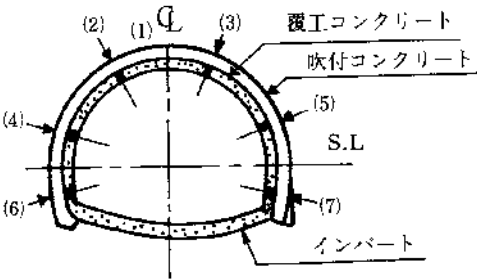
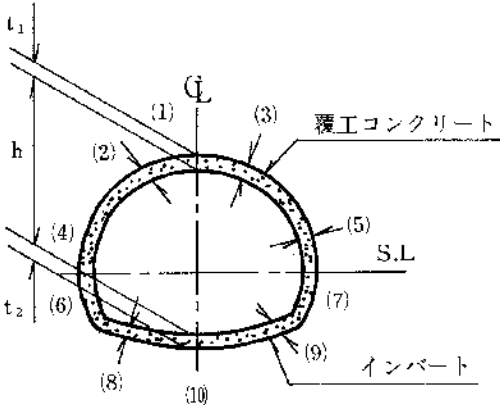
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	砂利舗装工	幅(B)	⊕ 100 ⊖ 65	⊖ 100	施工延長おおむね 50m につき 1箇所割合で 測定する。
		厚さ(T)	⊕ 30	⊖ 45	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 50m未満 ⊖ 100	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、厚さで 20 点以上の もの	左記のもの で 20 点未満 のもの及び 施工延長	—		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準		
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	道路トンネル	支 保 工	幅(b)	⊖ 70	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。	
			間隔(ℓ)	⊕ 50		⊕ 75
	コ ン ク リ ー ト 覆 工	コ ン ク リ ー ト 覆 工	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 2. 巻 厚 (イ)コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの中間と終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ロ)コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ハ)削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所、②③⑨において100mにつき1箇所の割合で行う。 ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。
			幅(B)	⊕ 45	⊖ 70	
			巻厚(T)	⊖ 30	⊖ 50	
			高さ(H)	⊕ 45	⊖ 70	
			中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
				曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上の もの	左記のもの で 20 点未満 のもの	—		破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。
基準高、幅、 巻厚、高さ、 中心線のズレで 20 点 以上のもの	左記のもの で 20 点未満 のもの及び 施工延長	—		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	道路トンネル (NATM)	支 保 工	幅(b)	⊖ 70	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			間隔(ℓ)	⊕ 50	
		吹付コンクリート厚(T)		施工吹付厚 ≥設計吹付厚 ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長 50m毎に図に示す(1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定する。
	ロ ツ ク ボ ルト	位置間隔(L)			施工延長 50m毎に断面全本数を測定する。 (深さについては、残尺で管理する)
		角度(θ)			
		深さ(ℓ)			
		孔径(φ)			
	コ ン ク リ ー ト 覆 工	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	1. 基準高、幅、高さは施工延長 50mにつき1箇所測定する。 2. 巻厚 (イ)コンクリート打設前の巻立空間を、1打設長の終点を図に示す各点で測定、中間部はコンクリート打設口で測定する。
		幅(B)	⊖ 30	⊖ 50	
		巻厚(T)	⊖ 0	⊖ 0	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上の もの	左記のもの で 20 点未満 のもの	—		破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。
吹付厚で 20 点以上のもの	左記のもの で 20 点未満 のもの	—) 	
—	—	—		
—	基準高、幅、 巻厚、高さ、 施工延長	—		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	道路トンネル (NATM)	コン ク リ ー ト 覆 工	高さ(H)	⊖ 30	⊖ 50
			中心線の ズレ(e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100
				曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150
施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖150			
				<p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において図に示す各点で巻厚測定を行う。</p> <p>(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は50mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔により測定する。</p> <p>(ニ) ただし、以下の場合には適用除外とする。</p> <p>① 良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。</p> <p>② 異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確保されている場合。</p> <p>③ 鋼製支保工、ロックボルトの突出。</p>	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		

工 種		項 目		管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
5 水 路 ト ン ネ ル 工 事	水路トンネル	支 保 工	幅(b) (Bタイプ)		⊖ 0	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			幅(b) (C、Dタイプ)		⊖ 40	
		間 隔 (ℓ)	⊕ 50	⊕ 75		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		<p>破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。 吹付ロックボルト工法の吹付及びロックボルトは、道路トンネル(NATM)を参考とする。</p>

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準		
5 水路トンネル 工事	水路トンネル	コンクリート覆工	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	<p>1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンにつき1箇所割合で測定する。</p> <p>2. 巻 厚</p> <p>(イ)コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。</p> <p>(ロ)コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。</p> <p>(ハ)削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所、②③④において100mにつき1箇所割合で行う。ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。</p> <p>3. 中心線のズレ</p> <p>直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所割合で測定する。</p>	
			幅(B)	⊕ 25	⊖ 40		
			巻厚(T)	⊖ 0	⊖ 0		
			高さ(H)	⊕ 25	⊖ 40		
			中心線のズレ(e)	直線部	⊖ 65		直線部 ⊕ 100
				曲線部	⊖ 100		曲線部 ⊕ 150
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満	⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 巻厚、高さ、 中心線のズレで 20 点 以上のもの	左記のもの で 20 点未満 のもの及び 施工延長	—	<p>The diagram illustrates the measurement points for a pipe cross-section. It is divided into two parts: a top view and a bottom view.</p> <p>Top View: Shows a semi-circular cross-section. The outer boundary is labeled "設計巻厚線 (D線)". The inner boundary is labeled "S.L.". Dimensions include: e (offset from center to D-line), B_1 (width of D-line), B_2 (width of S.L.), H (height from S.L. to bottom), and v (bottom radius). A vertical dashed line is labeled \bar{z}.</p> <p>Bottom View: Shows the same cross-section with 10 numbered measurement points (① to ⑩) indicated by arrows. Points ①, ②, ③, and ④ are on the top arc. Points ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, and ⑩ are on the bottom arc. A horizontal dashed line is labeled "S.L.". A vertical dashed line is labeled \bar{z}.</p>	

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
6 水 路 工 事	現場打開水路	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未满是2箇所測定する。
		幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 15	⊖ 25	
		中心線のズレ(c)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		スパン長(L)	直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20	
	曲線部 ⊕ 20		曲線部 ⊕ 30		
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
	現場打サイン	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	上記と同一。
		幅(B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 13	⊖ 20	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
曲線部 ⊕ 65			曲線部 ⊕ 100		
スパン長(L)		直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20		
	曲線部 ⊕ 20	曲線部 ⊕ 30			
施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を9mとした場合。
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を9mとした場合。

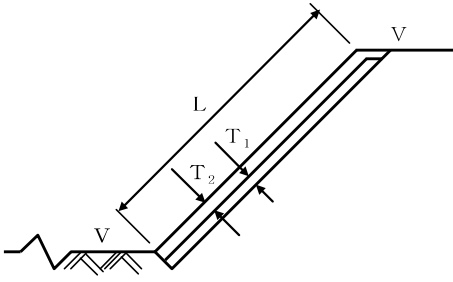
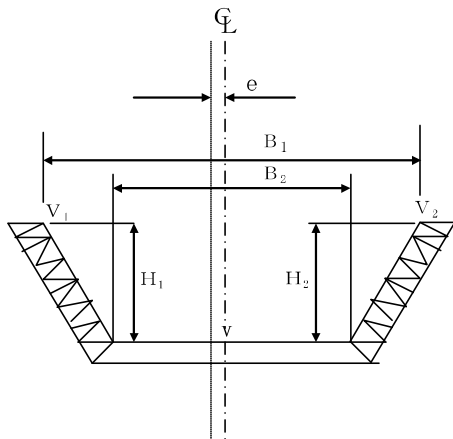
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
6 水 路 工 事	現場打暗渠			
	基準高(V)	⊖ 20	⊖ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
	幅(B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
	厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
	高さ(H)	⊖ 13	⊖ 20	
	中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
	スパン長(L)	直線部 ⊕ 13 曲線部 ⊕ 20	直線部 ⊕ 20 曲線部 ⊕ 30	
施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を9mとした場合。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
6 水路 工事	鉄筋コンクリート大型フリーム 鉄筋コンクリートL形水路	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mにつき 1箇所割合で測定する。 上記未満は 2箇所測定する。 幅、厚さについては施工延長 50mにつき 1箇所割合で測定する。 上記未満は 2箇所測定する。
		幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 15	⊖ 20	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
	ボックスカルバート水路	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mにつき 1箇所割合で測定する。 上記未満は 2箇所測定する。
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		幅、厚さは L 形水路のみ測定する。
基準高、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		

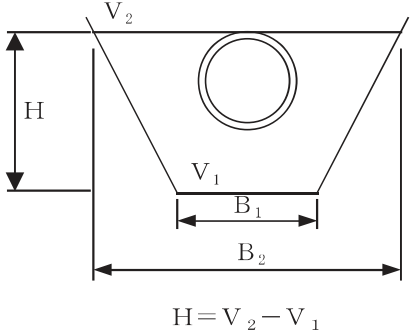
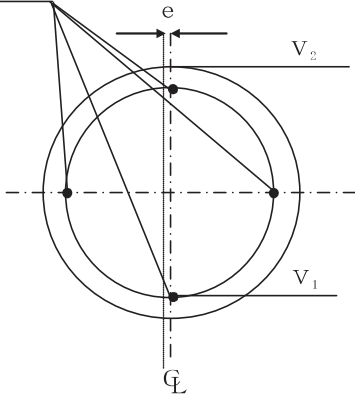
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
7 排 水 路 工 事 ・ 河 川 工 事	コンクリート 法覆工	⊕ 30	⊕ 45	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	基準高 (V)			
	アスファルト 法覆工	厚さ 10 cm未満 ⊕ 15 " 10 cm以上 ⊕ 20	⊖ 20 ⊖ 30	
	厚さ (T)			
	法長 (L)	法長 2 m未満 ⊕ 30 " 2 m以上 ⊕ 65	⊖ 50 ⊖ 100	
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 積 み 水 路 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 柵 渠	基準高 (V)	⊕ 30	⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所割合 で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 幅、高さについては施 工延長 50mにつき 1 箇 所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	幅 (B)	⊕ 25	⊖ 40	
	高さ (H)	⊕ 25	⊖ 40	
	中心線の ズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、厚さ、法長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram shows a perspective view of a pipe section. The length of the section is labeled as L. The thickness of the pipe is shown as T_1 and T_2. Vertical levels are indicated by V at both ends of the section.</p>	
基準高、幅、高さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram shows a cross-section of a pipe. The center line is marked with Φ. The width of the pipe is shown as B_1 and B_2. The height of the pipe is shown as H_1 and H_2. The offset of the center line is labeled as e. Vertical levels are indicated by V_1 and V_2.</p>	幅、高さは柵渠には適用しない。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
7 排 水 路 工 事 ・ 河 川 工 事	ライニング水路 基準高 (V)	⊕ 50	⊕ 75	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	連節ブロック 幅 (B)	⊕ 50	⊖ 75	
	コンクリート マット 法長 (L)	法長 2 m 未満 ⊕ 30 " 2 m 以上 ⊕ 65	⊖ 50 ⊖ 100	
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m 未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 法長で20点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの及び 施工延長	—		布設時の値である。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	管体基礎工 (砂基礎等)	幅(B)	⊖ 65	⊖ 100	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		高さ(H)	⊕ 20	⊕ 30	
RC管	管水路 (遠心力鉄筋 コンクリート 管)	基準高(V)	⊕ 20 ただし 被圧地下水のある場 合 ⊕ 30	⊕ 30 ⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65	⊕ 100	
	ジョイント 間隔(z)	別表イ 参照	別表イ 参照		
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、高さで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—	 <p style="text-align: center;">$H = V_2 - V_1$</p>	基礎材が異なる場合は種類毎に測定する。高さ (H) の管理は、 V_2V_1 で算出するものとする。
基準高、中心線のズレ、ジョイント間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p>  <p style="text-align: center;">基準高 (V) は、V_1、V_2 のいずれか一方を測定し管理する。</p>	<p>V の測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。</p> <p>ただし、$\phi 1,350$ mm 以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (V_2) でもよい。</p> <p>e の測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。</p> <p>なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装 (表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻完了時点とする。</p>

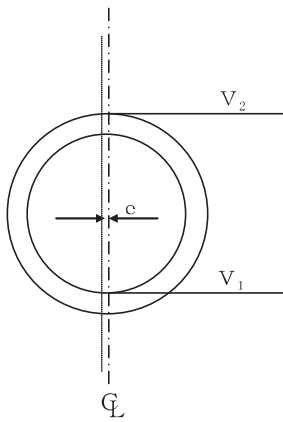
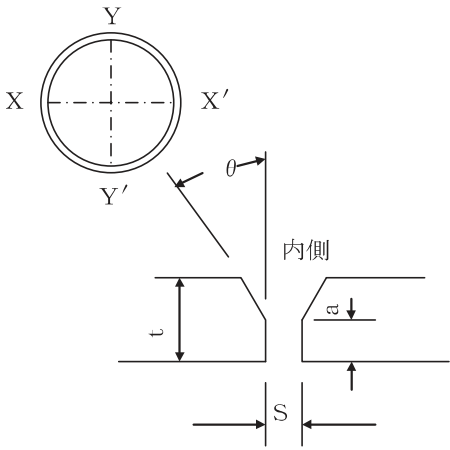
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	管水路 (ダクタイル 鋳鉄管) K形 T形 U形 (強化プラスチック 複合管) B形、T形 C形	基準高(V)	⊕ 20 ただし 被圧地下水のある場合 ⊕ 30	⊖ 30 ⊖ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所の割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65	⊖ 100	
		ジョイント 間隔(z)	別表ウ及び別表エ参照	別表ウ及び別表エ 参照	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの (様式3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ、ジョイント間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p> <p>The diagram shows a cross-section of a pipe joint. A vertical dashed line represents the centerline, labeled with the symbol Φ at the bottom. Two horizontal lines represent measurement points: V_1 is the lower point (pipe bottom) and V_2 is the upper point (pipe top). A horizontal double-headed arrow labeled e indicates the offset between the vertical centerline and the vertical line passing through V_2. A horizontal line at the top is labeled 'ジョイント間隔 測定位置 (z)'. Two overlapping circles represent the pipe sections at the joint.</p> <p>基準高 (V) は、V_1、V_2のいずれか一方を測定し管理する。</p>	<p>Vの測定は管底 (V_1)を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。 ただし、ϕ 1,350 mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (V_2)でもよい。 eの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。 なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。</p>

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	管水路 (硬質ポリ塩 化ビニル管)	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	設計図書に示された基 準高、あるいは埋設深、 中心線のズレ(直線部) については施工延長お おむね 50mにつき1箇 所の割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mにつき1箇所の割合 で測定する。 上記未満は2箇所測定 する。
		埋設深(H)	⊕ 65 ⊖ 35	⊖ 50	
		中心線の ズレ(e)	⊕ 80	⊕ 120	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
管水路 (鋼管)	<p>管種等の適用範囲は原則として下記による。</p> <p>管 種 J I S G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管—第1部：直管) W S P A-101-2009 (農業用プラスチック被覆鋼管)</p> <p>寸 法 80A~3500A</p> <p>塗覆装方法 管 外 面 長寿命形プラスチック被覆とする。 管 内 面 エポキシ樹脂塗装とする。 なお、塗覆装方法の詳細は、別表カのとおりとする。</p> <p>接 合 法 突き合わせ溶接継手とする。</p> <p>工 法 通常の開削による布設工法とする。</p> <p>管路の範囲 導水管、送水管及び配水管とし、配水池、ポンプなどの端部施設との接続部までとする。</p>				

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、埋設深、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		
				通常の開削による布設工法とは、矢板土留・建込簡易土留を含むものとする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	管布設	基準高(V) ただし、 被圧地下水のある場合	⊕ 20 ⊕ 30	⊕ 30 ⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所の割合 で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 30	⊕ 45	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
	V型開先 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0~3		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。 現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ベベル 角度(θ)	30~35°		
		ルート フェイス (a)	≦2.4		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-2)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレで20点以上ものもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram shows a circular pipe cross-section with a vertical centerline labeled CL. Two horizontal lines represent measurement points: V1 at the bottom and V2 at the top. A horizontal arrow labeled 'e' indicates the offset from the centerline to the inner edge of the pipe.</p>	<p>Vの測定は管底（V₁）を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。</p> <p>ただし、φ1,350 mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂（V₂）でもよい。</p> <p>eの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。</p> <p>なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。</p>
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	 <p>The diagram shows a pipe joint with a cross-section. The top part is a circular view with axes X-X' and Y-Y'. The bottom part is a side view showing a beveled joint. Dimensions include 't' for the thickness of the pipe wall, 's' for the gap between the pipe ends, and an angle 'theta' for the bevel. The word '内側' (inner side) is written near the joint.</p>	<p>左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。</p>

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準		
8 管 水 路 工 事	V型開先テー パ付き直管 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0~3	テーパ付き直管同士の 溶接箇所全数を測定す る。		
		ベベル 角度(θ)	Y、 Y' : 30~35° X' : 35~15° X : 30~50°			
		ルート フェイス (a)	≤ 2.4			
	V型開先 (片面溶接)	ルート ギャップ (s)	1~4		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。	
		ベベル 角度(θ)	30~35°			現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ルート フェイス (a)	≤ 2.4			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p>(平面図)</p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	V型開先 (片面裏当溶接)	ルート ギャップ (s)	4以上		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。
		ベベル 角度(θ)	22.5~27.5°		現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ルート フェイス (a)	≤ 2.4		
	X型開先 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0~3		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。
		ベベル 角度 (θ_1) (θ_2)	30~35° 40~45°		現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ルート フェイス (a)	2以下		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p> $t' = 4 \sim 6$ $w = 30 \sim 60$ </p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p> $A = 2/3(t-a)$ $B = 1/3(t-a)$ </p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。

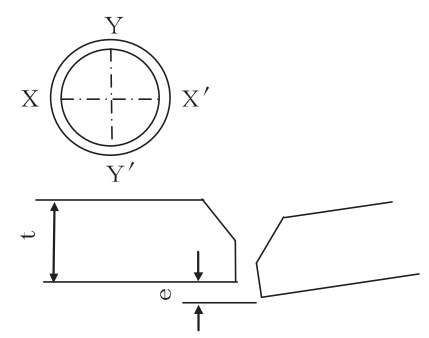
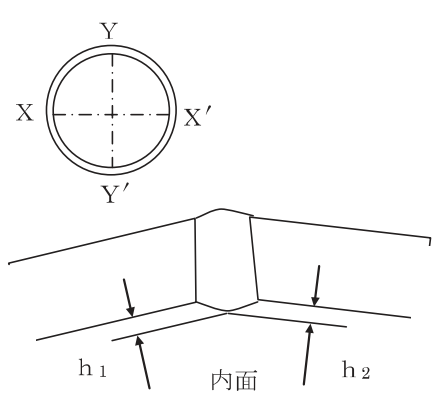
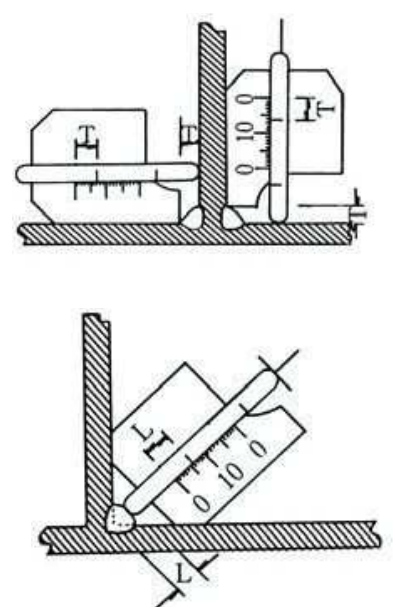
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	X型開先テー パ付き直管 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0~3	テーパ付き直管同士の 溶接箇所全数を測定す る。
		ペベル 角度 (θ_1) (θ_1) (θ_1) (θ_2) (θ_2) (θ_2)	Y、 Y' : 30~35° X' : 35~15° X : 30~50° Y、 Y' : 40~45° X' : 40~60° X : 45~25°	
	ルート フェイス (a)	2以下		
周継手溶接	目違 (e) 両面溶接 片面溶接	t : 板厚(S63) t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 e ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 16 c ≤ 0.25t 16 < t ≤ 38 e ≤ 4.0		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p>(平面図)</p> <p>①~①</p> <p>Y X X' Y'</p> <p>(外面)</p> <p>t B a A</p> <p>θ_2 s θ_1</p> <p>$A = 2/3 (t - a)$ $B = 1/3 (t - a)$</p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
目違い、余盛高で 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—	<p>Y X X' Y'</p> <p>t e</p>	

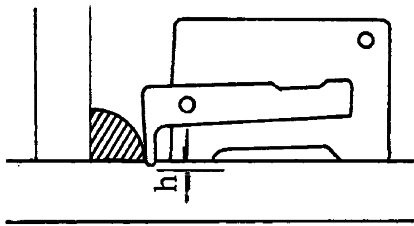
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	周継手溶接 余盛高(h)	t : 板厚 t ≤ 12.7 h ≤ 3.2 t > 12.7 h ≤ 4.8		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定する。
	アンダ カット(h)	h ≥ 0.5 は不合格。0.3 < h ≤ 0.5 は、1 個の長さ 30 mm (内側にあつて は 50 mm) を越えるも の、又は合計長さが管 の円周長さの 15% を 越えるものは不合格。 h ≤ 0.3 は合格。		1 箇所毎に全円周を目 視により点検し、懸念の ある部分はゲージによ り点検する。
	ビード外 観	ビード表面に極端な不 揃い部分があつてはな らない。		1 箇所毎に全円周を目 視により点検する。
	その他	溶接部及びその付近に は、割れ、アークスト ライクの跡、有害と認 められる程度のオーバ ラップ、ピット、ジグ 跡などの欠陥があつて はならない。		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
—	—	○		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	周継手溶接テーパ付き直管	目 違 い (e) 両面溶接	t : 板厚 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 c ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0	テーパ付き直管同士の溶接箇所全数を測定する。
		余盛高(h)	t : 板厚 t ≤ 12.7 h ≤ 3.2 t > 12.7 h ≤ 4.8 ただし h=(h ₁ +h ₂)/2	
	すみ肉溶接	脚長(T)	指定脚長を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの5%以下で-1.0mmまでは認める。	溶接線全長にわたって目視により点検し、懸念のある部分はゲージにより点検する。
		のど厚(L)	指定のど厚を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの5%以下で-0.5mmまでは認める。	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
目違い、余盛高で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
				
—	—	○		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	すみ肉溶接	アンダ カット(h)	0.5<h<1.0 の時アン ダカットの長さが板厚 よりも大きいものがあ ってはならない。 h \geq 1.0 のアンダカッ トはあってはならな い。	溶接線全長にわたって 目視により点検し、懸念 のある部分はゲージに より点検する。	
		ピット	ピットの直径が1mm以 下では溶接長さ1mに つき3個までを許容す る。 しかし直径が1mmを超 えるものがあってはな らない。		
		ビード外 観	ビード表面に極端な不 揃い部分があってはな らない。		溶接線全長にわたって 目視により点検する。
		その他	溶接部及びその付近に は、割れ、アークスト ライクの跡、有害と認 められる程度のオーバ ラップ、ジグ跡などの 欠陥があってはならな い。		
放射線透過試 験	別表オ参 照	別表オの判定基準参照		周継手溶接の場合、全溶 接線長の5%を撮影す るものとする。 すみ肉溶接の場合は特 別仕様書による。	
素地調整	外観	水分、錆、油等があっ てはならない。		現場塗装全面を点検す る。	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
—	—	○		
—	—	○		全溶接線長とは、溶接箇所全ての溶接線長の総計をいう。
—	—	○		

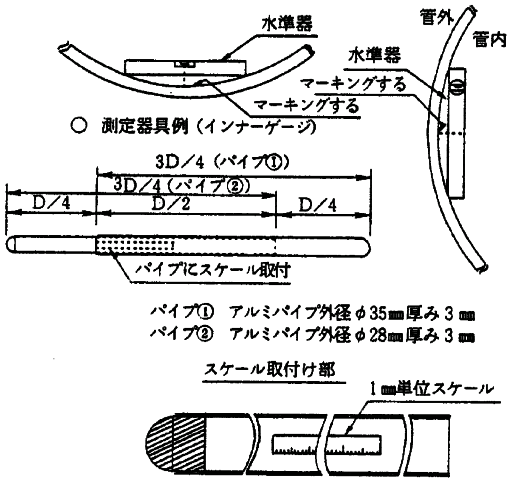
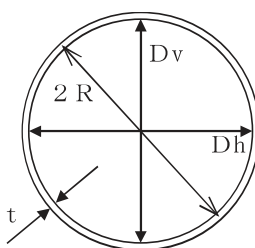
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	エポキシ樹脂 塗装	外観	塗装表面に異物の混入、塗りむら、塗りもれなどがあってはならない。	現場塗装全面を点検する。
		膜厚	最低膜厚は別表カ又は特別仕様書に規定する膜厚を下回ってはならない。	現場塗装箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 12 点測定する。(天地左右、縦断方向に各 3 点)
		ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。	現場塗装全面を点検する。
		付着性	付着不良の欠陥があってはならない。	

管 理 方 式			測定箇所標準位置図及び測定要領	摘 要				
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)						
—	—	○		JIS G 3443-4 に準じる。				
膜厚で 20 点 以上のもの	左記のもの で 20 点未満 のもの	—	<p>電磁微厚計など で測定する。</p> <p>縦断方向 → 測定箇所</p>					
—	—	○	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール 検査を行う。</p> <p style="text-align: center;">標準試験電圧</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">塗膜の厚さ (mm)</th> <th style="width: 50%;">試験電圧 (DC V)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0.5 以上</td> <td style="text-align: center;">2,000~2,500</td> </tr> </tbody> </table>	塗膜の厚さ (mm)	試験電圧 (DC V)	0.5 以上	2,000~2,500	
塗膜の厚さ (mm)	試験電圧 (DC V)							
0.5 以上	2,000~2,500							
—	—	○	柄のついた鋼製両刃のへら (全長約 200 mm 程度) を用いてはつきり、付着の良否を点検する。					

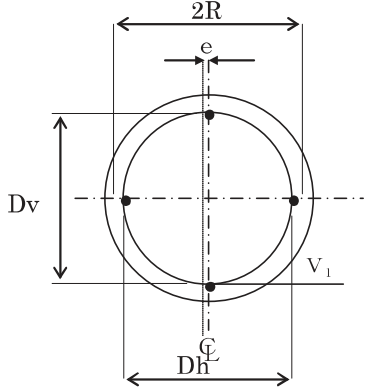
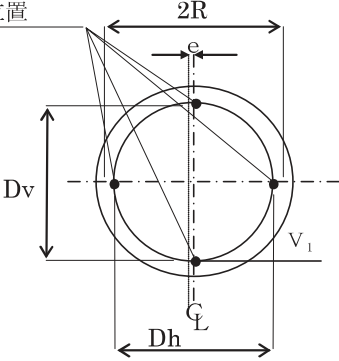
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	ジョイントコート	焼損	あってはならない。	ジョイントコート全数を点検する。
		両端のめくれ	有害な欠陥となる大きなめくれがあってはならない。	
		ふくれ	ジョイントコートの両端から 50mm 以内にふくれがあってはならない。	
		工場被覆部との重ね代(a)	片側 50 mm 以上	
	ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。	ジョイントコート全数全面を点検する	
	膜厚	別表カのとおり 1.5 mm 以上 ただし、加熱収縮後の厚さとする。		ジョイントコート施工箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 4 点測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-2)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	○		
—	—	○	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール検査を行う。試験電圧は10,000～12,000Vを標準とする。</p>	
膜厚で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		

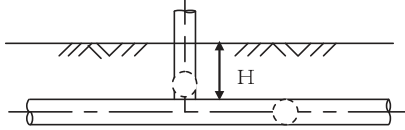
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。 管 種			
	ダクタイル鋳鉄 管	J I S G5526(ダクタイル鋳鉄管) J D P A G1027(農業用水用ダクタイル鋳鉄管)			
	鋼管	J I S G3443-1(水輸送用塗覆装鋼管-第1部：直管) W S P A-101(農業用プラスチック被覆鋼管)			
	強化プラスチック 管	J I S A5350(強化プラスチック複合管) F R P M K111-2016 (強化プラスチック複合管内圧管 フイバマトリックス・インク成形法)			
	たわみ率				
	締	なし	± 3%	± 5%	施工延長おおむね 50 mにつき1箇所割 合で測定する。 上記未満は2箇所測 定する。 測定は定尺管の中央 部とする。 測定時期は管据付時 (接合完了後)、管頂埋 戻時及び埋戻完了時 とする。 なお、「埋戻完了」と は、特に指示がない場 合は舗装(表層、上層 路盤、下層路盤)を除 いた埋戻完了時点と する。
	固	I	± 3%	± 5%	
	め	I 礫質土	± 4%	± 5%	
	程 度	II	± 4%	± 5%	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要								
管理図表によるもの (様式 3-5)	結果一覧表によるもの (様式 3-5)	構造図に朱記、併記するもの										
			<p>管据付時の測定の際、以下の手順で天・地・左・右の各測定基準点を固定し、以後同一点でたわみ量を測定する。</p> <p>① 測定しようとする管の管中央位置を管底及び左右管側にペイントでマーキングする。</p> <p>② その位置に水準器を下図のように水平におく。その後、水準器の中央点を管にマーキングする。</p> <p>③ ②でマーキングした点に測定棒を立て、測定棒に水準器を添わせて測定棒を垂直にし、その状態で測定棒をスライドさせ測定棒と管の接点をマーキングする(管天測点となる)。</p> <p>④ ①でマーキングした位置(左右管側)に下図のように水準器を使って水平点をマーキングする。</p>  <p>水準器 管外 管内 マーキングする マーキングする ○ 測定器具例 (インナーゲージ) 3D/4 (パイプ①) 3D/4 (パイプ②) D/4 D/2 D/4 パイプにスケール取付 パイプ① アルミパイプ外径φ35mm厚み3mm パイプ② アルミパイプ外径φ28mm厚み3mm スケール取付け部 1mm単位スケール</p>									
各測定時期で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—	 <p>たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (D_h + t)]$ 又は $[2R - (D_v + t)]$ 2R : 管厚中心直径 t : 管厚</p>	<p>管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p> <p>締固め程度は次のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>締固めの程度</th> <th>仕上り程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>締固めなし</td> <td>締まった状態を保持し、ゆるむ膨脹状態をばき</td> </tr> <tr> <td>締固め I</td> <td>締固め度の 85%以上</td> </tr> <tr> <td>締固め II</td> <td>締固め度の 90%以上</td> </tr> </tbody> </table>	締固めの程度	仕上り程度	締固めなし	締まった状態を保持し、ゆるむ膨脹状態をばき	締固め I	締固め度の 85%以上	締固め II	締固め度の 90%以上
締固めの程度	仕上り程度											
締固めなし	締まった状態を保持し、ゆるむ膨脹状態をばき											
締固め I	締固め度の 85%以上											
締固め II	締固め度の 90%以上											

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準		
8 管 水 路 工 事	シールド工事 (一次覆工) コンクリート セグメント 鋼製セグメント	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	基準高、中心線のズレ(直線部)、たわみ率については施工延長おおむね 50mにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mに1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 65 曲線部 ⊕ 100	直線部 ⊕ 100 曲線部 ⊕ 150		
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
		たわみ率	⊕ 3%	⊕ 5%		
	シールド工事 (二次覆工) 既製管覆工 推進工事	基準高(V)	既製管挿入工	⊕ 20		⊕ 30
			推進工事	⊕ 30		⊕ 50
		中心線のズレ(e)	⊕ 65	⊕ 100		
		ジョイント間隔(Z)	別表イ、ウ及び別表エ参照	別表イ、ウ及び別表エ参照		
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200		
	たわみ率	⊕ 3%	⊕ 5%	施工延長おおむね 50mにつき1箇所を測定する。 上記未満は2箇所測定する。 測定時期は、管据付時、注入完了時とする。		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4、3-5)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4、3-5)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ、たわみ率で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	Vの測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は完了時とする。
基準高、中心線のズレ、たわみ率で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置</p>  <p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	Vの測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は完了時とする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
9 畑 か ん 施 設 工 事	スプリンクラー 埋設深(H)	⊕. 65 ⊖. 35	⊖. 50	構造図の寸法標示箇所 を測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
埋設深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
10 橋 梁 工 事	コンクリート桁 〔ポストテン ション桁〕	幅(B)	上幅 (B ₁) ⊕ 7 ⊖ 3 下幅 (B ₂ 、B ₃) ⊕ 3	⊕ 10 ⊖ 5 ⊕ 5	幅、高さについては桁の 両端部、中央部の3箇所 を全桁数測定する。 桁長は各桁で、横方向の 最大曲がりについては プレストレスング後 に、全桁数測定する。
		高さ(H)	⊕ 7 ⊖ 3	⊕ 10 ⊖ 5	
		桁長(L)	⊕ 10	⊕ 15	
		横方向の 最大曲がり(δ) (桁長 10.5m 未満)		1.5L-6	
	横方向の 最大曲がり(δ) (桁長 10.5m 以上)		10		
	鉄筋コンク リート床版 工	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	
幅(B)		⊕ 20	⊕ 30		
厚さ(T)		⊕ 13 ⊖ 7	⊕ 20 ⊖ 10		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	幅、高さ、桁長、横方向の最大曲がり	<p>L : 桁長 (m)</p>	
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ		コンクリート橋に適用する。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
10 橋 梁 工 事	鉄筋コンク リート高欄 及び地覆工	高欄幅 (B)	⊕ 13	⊖ 20
		高欄高さ (H)	⊕ 20	⊖ 30
		地覆幅 (B)	⊕ 13	⊖ 20
		地覆高さ (H)	⊕ 13	⊖ 20

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	高欄幅、高欄高さ、地覆幅、地覆高さ		

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
11 橋 梁 下 部 工 事	橋台工	敷幅(B)	⊕ 30	⊖ 50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。
		控壁の厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 30	⊖ 50	
		中心線のズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50	
		天端長(L ₁)	⊕ 30	⊖ 50	
		敷長(L ₂)	⊕ 30	⊖ 50	
		胸壁間距離(L ₃)	⊕ 20	⊕ 30	
		橋台沓部	「1 共通工事の精度を要するもの」の項に定めるところによる	同	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	敷幅、控壁の厚さ、高さ、中心線のズレ、天端長、敷長、胸壁間距離		2スパン以上の場合の胸壁間距離は「橋脚工」の橋脚中心間距離において管理する。
同 左	同 左	同 左	同 左	

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工 〔張出式 重力式 半重力式〕	基準高(V)	⊕. 15	⊖. 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。
	天端長(l_1)	⊕. 30	⊖. 50		
	敷長(l_2)	⊕. 30	⊖. 50		
	天端幅(B_1)	⊕. 20 ⊖. 13	⊖. 20		
	敷幅(B_2)	⊕. 30	⊖. 50		
	高さ(H)	⊕. 30	⊖. 50		
	橋脚中心 間 距 離 (L)	⊕. 20	⊕. 30		
	中心線の ズレ(e)	⊕. 30	⊕. 50		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、天端長、敷長、天端幅、敷幅、高さ、橋脚中心間距離、中心線のズレ		

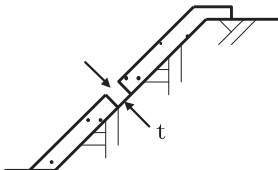
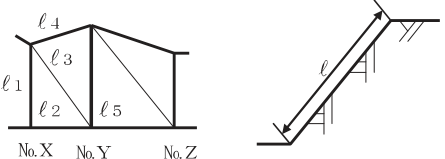
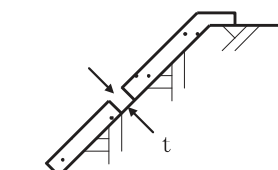
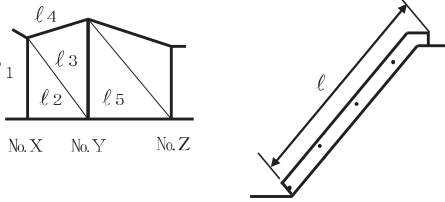
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工 (ラーメン式)	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。
		天 端 長 (<i>l</i>)	⊕ 15	⊖ 20	
		天端幅 (<i>B</i> ₁)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		中間幅(<i>d</i>)	⊕ 15	⊖ 20	
		基礎幅 (<i>B</i> ₂ 、 <i>b</i>)	⊕ 30	⊖ 50	
		高さ(<i>H</i>)	⊕ 30	⊖ 50	
		厚さ(<i>T</i>)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		橋脚中心 間 距 離 (<i>L</i>)	⊕ 20	⊕ 30	
		中心線の ズレ(<i>e</i>)	⊕ 30	⊕ 50	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、天端長、天端幅、中間幅、基礎幅、高さ、厚さ、橋脚中心間距離、中心線のズレ		

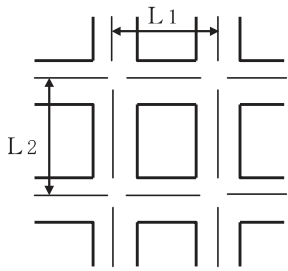
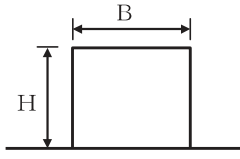
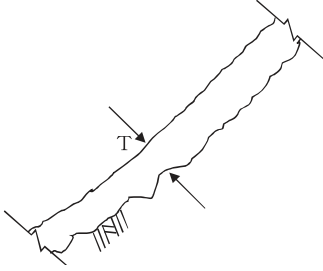
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	ラス張 植生マット 植生シート 繊維ネット 張芝 人工張芝	面積(A)	施工面積 \geq 設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。
	アンカー ピン数		ラス張 $\phi 9 (D10) \times L=200 \text{ mm}$ 1.5 本/ m^2 以上 $\phi 16 (D16) \times L=400 \text{ mm}$ 0.3 本/ m^2 以上	ラス張は 200 m^2 に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	アンカー ピン及び 止め釘		植生マット、繊維ネット 肥料袋付 6 本/ m^2 以上 肥料袋無 3 本/ m^2 以上	植生マット及び繊維ネ ットは 500 m^2 に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
種子散布	面積(A)		施工面積 \geq 設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。
—	測定値を記入	—		(参考) 規格値に示す値は標準であることから、工法により標準本数が異なる場合は、別途監督職員と協議する。
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。

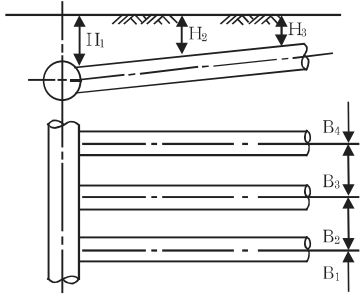
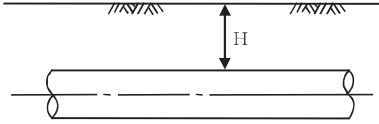
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	客土吹付	厚さ(T)	平均厚さ \geq 設計厚さ ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。	施工面積 500 m ² に 1 箇所割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		面積(A)	施工面積 \geq 設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。
	植生基材吹付	厚さ(T)	平均厚さ \geq 設計厚さ 測定値は 設計厚 5 cm未満 \ominus 10% " 5 cm以上 \ominus 20% ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。	施工面積 200 m ² に 1 箇所割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		面積(A)	施工面積 \geq 設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		<ol style="list-style-type: none"> 1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。 3 設計吹付厚さ5 cm以上には適用しない。
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		<ol style="list-style-type: none"> 1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	吹付枠	梁延長		施工延長 \geq 設計延長 全施工延長について展開図により測定する。
		梁間隔 (L)		\oplus L/10 施工面積 200 m ² に1箇所 の割合で測定する。
		梁断面(H) (B)		\ominus 20 施工面積 200 m ² に1箇所 の割合で測定する。
	コンクリート 吹付 モルタル吹付	吹付厚さ (T)	設計厚 5 cm 未 満 \oplus 7 " 5 cm 以 上 \oplus 15	\ominus 10 \ominus 20 (ただし、吹付面に凹凸 がある場合の最小吹付 厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以 上。)

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	展開図に朱記、併記する		
間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
断面で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		施工端部、岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	
13 暗 渠 排 水 工 事	吸水渠	布設深 (H)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	上、下流端の2箇所を測定する。 ただし、1本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。
		間隔(B)	⊕ 500	⊕ 750	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 500 m 以下 ⊖ 1,000	
	集水渠(支線) 導水渠(幹線)	布設深 (H)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 500 m 以下 ⊖ 1,000	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
布設深、間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		
布設深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準		
14 フ イ ル ダ ム 工 事	監査廊 (暗渠タイプ)	基準高(V)	⊕ 20	⊖ 30	1. 基準高、幅、厚さ、高さについては1スパンにつき1箇所割合で測定する。 2. 厚さはコンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑧の各点で測定する。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。	
		幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15 ただし、 B ₂ 、B ₃ ⊖ 15	⊖ 25		
		厚さ(T)	⊖ 13	⊖ 20		
		高さ(H)	⊕ 25 ただし、 H ₂ ⊖ 25	⊖ 40		
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 50	直線部 ⊖ 75		
			曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊖ 150		
		スパン長	直線部 ⊕ 13	直線部 ⊖ 20		
	曲線部 ⊕ 20		曲線部 ⊖ 30			
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150			
	堤体盛土	ゾ ー ン 幅	遮水 ゾーン		ℓ ₁ ⊕ 500 ⊖ 0	ゾーン幅については施工延長おおむね20mにつき1箇所割合で測定する。
			フィルター ゾーン		ℓ ₂ ⊕ 500 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上	
			トランジ ョンゾーン		ℓ ₃ ⊕ 1,000 ⊖ 500	
			ロック ゾーン		ℓ ₄ ⊕ 1,000 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		
ゾーン幅で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—	<p>注) ゾーン区分 C : 遮水ゾーン F : フィルターゾーン T : トランジションゾーン R : ロックゾーン</p>	1 堤体表面張立(張石)状態に適用する。 2 ゾーン幅とはダム中心線から設計境界線までの距離(l)と各ゾーン単独有効幅(B)をいう。 3 管理基準値については別途定めるものとする。 4 各リフト毎の盛立高の管理基準値については別途定めるものとする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
14 フ イ ル ダ ム 工 事	洪水吐			
	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所割合で測定する。
	幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
	厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13 ただし、 T ₁ ~T ₉ ⊖ 13	⊖ 20	
	高さ(H)	⊕ 15	⊖ 25	
	中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
	スパン長	直線部 ⊕ 13 曲線部 ⊕ 20	直線部 ⊕ 20 曲線部 ⊕ 30	
施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	<p>*斜線部はインバート</p>	インバートと側壁が一体構造の場合、測定箇所は別途定めるものとする。

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準		
15 頭 首 工 工 事	本体	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	構造図の寸法表示箇所を測定する。	
		幅(B)	天端幅等	⊕ 20		⊖ 30
			エプロン部	⊕ 40		⊖ 60
		厚さ(T)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁、エプロン部等	⊖ 30		
		高さ(H)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁等	⊖ 30		
	長さ(L)	⊕ 100 ⊖ 65 導流壁、エプロン部	⊖ 100			
	護床ブロック (異形ブロック)	基準高(V)	⊕ 100	⊕ 150	基準高については施工面積 100 m ² につき1箇所割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。	
		面積(A)		⊖ 0.2%		

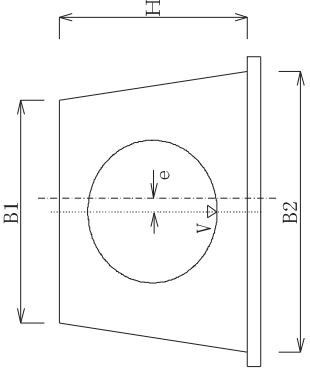
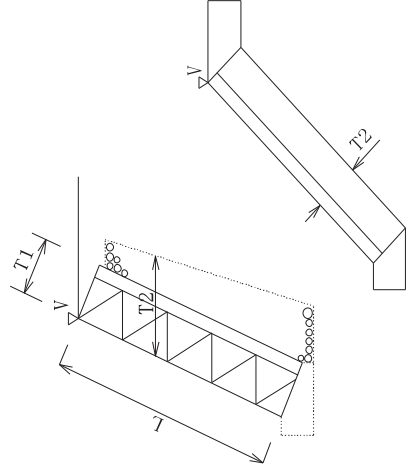
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ		
基準高で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		

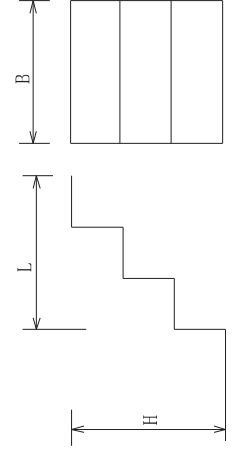
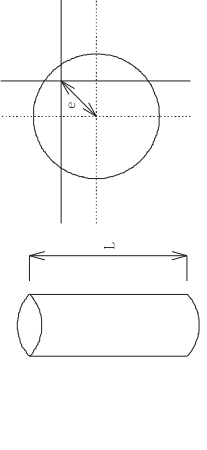
工種	項目	管理基準値(mm)	(参考) 規格値(mm)	測定基準
16 海岸 河川 工事	捨石工 消波ブロック	基準高(V) ⊕ 200 捨石工は特別仕様書による	⊖ 300 捨石工は特別仕様書による	基準高、幅については施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。
		幅(B) ⊕ 200	⊖ 300	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅で20点以上 のもの	左記のも で20点未 満のもの	左記のも で箇所単 位のもの		

ため池改修工事 出来形管理基準

工種	項目	管理基準値(mm)	(参考) 規格値(mm)	測定基準	管理方式			測定箇所標準図	摘要						
					管理図表によるもの	結果一覧表によるもの	構造物に未記併記するもの								
堤体工	基準高(V)		± 100	線的なものについては、施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。 上記未滿は2箇所測定する。	基準高、幅、厚、高さ、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未滿のもの	左記のもの、20点未滿のもの		<p>1 刃金土(W3)、さや土(W4)の幅は盛土高1m毎に管理する。</p> <p>2 測定は原則として、水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。</p> <p>3 出来形測定と写真は同一箇所で行う。</p> <p>4 出来形図は横断面図を利用して測定する。</p>						
	堤頂幅(W1)	W1: -65	- 100												
	小段幅(W2)	W2: -65													
	刃金土幅(W3)	W3: +300、-0													
	さや土幅(W4)	W4: +300、-65													
	トレンチ上幅(W5)	W5: +300、-0													
	トレンチ下幅(W6)	W6: +300、-0													
	法長(L)	L: -65	- 100												
	法勾配(n)	n: +1分、-0													
	施工延長		- 200												
	洪水吐工	基準高(V)	± 20							± 30	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未滿のもの及び施工延長	箇所単位で構造物について、基準高、厚さ、幅、高さ	
		厚さ(T)	± 13							± 20					
		幅(B)	± 20							± 30					
		高さ(H)	± 20							± 30					
中心線のズレ(e)		直線部 ±35 曲線部 ±65	直線部 ±50 曲線部 ±100												
施工延長(又は長さ)			-150												
スパン長(L)		直線部 ±13 曲線部 ±20	直線部 ±20 曲線部 ±30												
〃															

工種	項目	管理基準値(mm)	(参考) 規格値(mm)	測定基準	管理方式		測定箇所標準図	摘要
					管理図表によるもの	結果一覧表によるもの		
縦管工 同上付帯構造物 (工砂缸ゲート等)	基準高(V)	± 20	± 30	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレについては施工延長10mにつき1箇所の割合で測定する。	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレ、ジョイント間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの		<p>1 基準高(V)は管底を原則とする。</p> <p>2 コンクリート二次製品使用の場合がある。</p> <p>3 底樋がトンネルの場合は、土木工事施工管理基準「水路トンネル工事」に準ずる。</p> <p>4 斜樋等付帯構造物は土木工事施工管理基準「共通工事」のコンクリート付帯構造物に準ずる。ただし、基準高(V)は、取水孔(ゲート中心)の標高とし、高さ(H)は斜面直角方向とする。</p>
	厚さ(T)	+20 -13	- 20	ジョイント間隔については、1本毎に測定する。				
	幅(B)	+20 -13	- 20					
	高さ(H)	± 13	- 20					
	中心線のズレ(e)	直線部 ± 35	直線部 ± 50					
	''	曲線部 ± 65	曲線部 ± 100					
施工延長	-100	- 150		箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。				
張ブロック工 腰ブロック工	基準高(V)	+40 -25	+65 -40	線的なものについては施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。	基準高、厚さ、法長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの		<p>1 基礎コンクリートは、土木工事施工管理基準「共通工事」のコンクリート基礎を適用する。</p>
	厚さ(T1)	石面より裏込コンクリート背面まで		上記未満は2箇所測定する。				
	厚さ(T2)	石面より裏込材料背面まで	± 30					
	法長(L)	法長2m未満 ± 25	- 40					
	''	法長2m以上 ± 50	- 75					
	施工延長		- 0.1% ただし延長10m未満 - 50		2m以上は2箇所(おおむねL/3、2/3*L)測定することとを原則とする。			
法勾配		10m以上50m未満 - 100		箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。				
								± 10%

工種	項目	管理基準値(mm)	(参考) 規格値(mm)	測定基準	管理方式		測定箇所標準図	摘要
					管理図表によるもの	結果一覧表によるもの		
現場打階段工	幅(B)	± 20	— 30	線的な構造物については施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。 箇所単位のものについては適宜構造図の寸法標示箇所を測定する。	基準高、厚さ、幅、高さで20点以上20点未満のもの	左記のもので20点未満のもの又は構造物に未記の併記すること及び施工延長		
	高さ(H)	2m未満 ±20 2m以上 ±30	— 30 — 45					
	長さ(L)		— 0.1% ただし延長 2m未満 - 30 10m未満 - 50 50m未満 - 100 200m未満 - 200					
ボーリング工 (グラウト)	深度(L)		設計値以上	全数測定	—	深度、偏心		
	偏心(e)	100	150		—			

別表ア 基礎杭打工 偏心管理基準値

(単位：mm)

杭 径	木 杭		プレキャストコンクリート杭	
	管理基準値	(参 考) 規 格 値	管理基準値	(参 考) 規 格 値
60	60	225		
90	90	225		
120	120	225		
150	150	225		
180	180	225		
210	210	225		
200			33	50
250			41	62
300			50	75
350			58	87
400			66	100
450			66	100
500			66	100
550			—	—
600			66	100
700			66	100
800			66	100
900				
1,000				
1,200				
1,500				
1,800				
2,000				
2,500				
3,000				

(単位：mm)

杭 径	鋼 管 杭		場 所 打 杭	
	管理基準値	(参 考) 規 格 値	管理基準値	(参 考) 規 格 値
60				
90				
120				
150				
180				
210				
200				
250				
300				
350				
400	66	100		
450	66	100		
500	66	100		
550	66	100		
600	66	100		
700	66	100		
800	66	100	66	100
900	66	100	—	—
1,000	66	100	66	100
1,200			66	100
1,500			66	100
1,800			66	100
2,000			66	100
2,500			66	100
3,000			66	100

別表イ 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔管理基準値

（単位：mm）

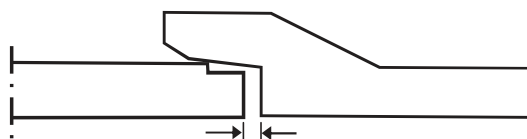
呼び径(mm)	JIS A 5372 RC管（B形管）			JIS A 5372 RC管（NB形管）	
	管理基準値	（参考）規格値		管理基準値	（参考）規格値
		8管水路工事 良質地盤	8管水路工事 軟弱地盤		
150	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0
200	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0
250	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0
300	+12 0	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0
350	+12 0	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0
400	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0
450	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0
500	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0
600	+15 0	+23 0	+13 0	+19 0	+29 0
700	+14 0	+21 0	+12 0	+19 0	+29 0
800	+16 0	+24 0	+13 0	+19 0	+29 0
900	+17 0	+26 0	+15 0	+19 0	+29 0
1,000	+21 0	+32 0	+18 0	—	—
1,100	+22 0	+33 0	+19 0	—	—
1,200	+23 0	+35 0	+21 0	—	—
1,350	+24 0	+37 0	+22 0	—	—

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所での平均値とする。
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
 なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
 4. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。規格値及び管理基準値は下図に示す位置を測定するものとする。
 5. 管の外面から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示すa'b'c'd'とする。

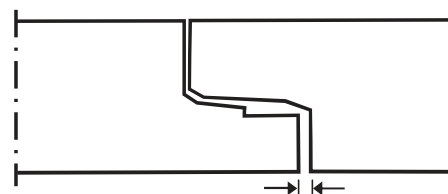
（参考）ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

(1)内面から計測する場合

B形及びNB形



NC形



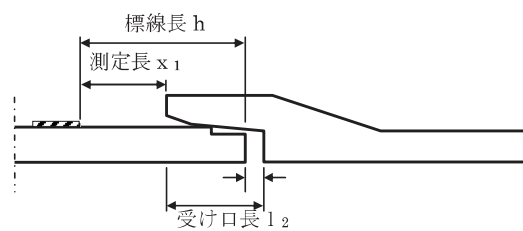
(単位：mm)

J I S A 5372 R C管(NC形管)					
呼び径(mm)	標準値	管理基準値		(参考)規格値	
1,500	5	+24	+5	+33	+5
1,650	5	+24	+5	+33	+5
1,800	5	+24	+5	+33	+5
2,000	5	+24	+5	+33	+5
2,200	5	+24	+5	+33	+5
2,400	5	+27	+5	+38	+5
2,600	5	+27	+5	+38	+5
2,800	5	+27	+5	+38	+5
3,000	5	+27	+5	+38	+5

(2) 外面から計測する場合

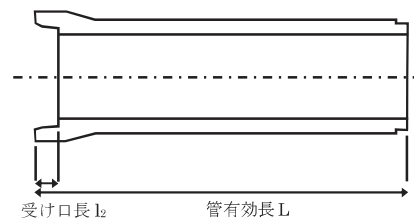
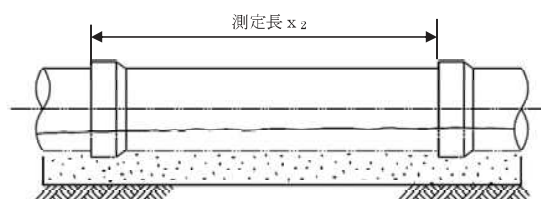
1) 標線による計測

ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (標線長 h - 側線長 x_1)



2) 標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (管有効長 L - 測定長 x_2)



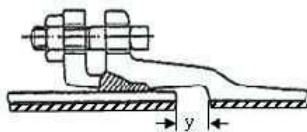
別表ウ 管水路（ダクトイル鋳鉄管）ジョイント間隔管理基準値

（単位：mm）

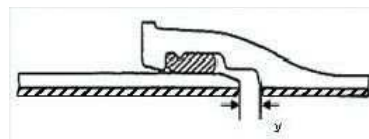
規 格	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027		JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029	
	8 管水路工事 K 形		8 管水路工事 T 形（直管）	
呼び径（mm）	管理基準値	（参考）規格値	管理基準値	（参考）規格値
75	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
100	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
150	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
200	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
250	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
300	+14 0	+19 0	+16 0	+24 0
350	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
400	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
450	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
500	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
600	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
700	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
800	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
900	+22 0	+31 0	+25 0	+40 0
1,000	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,100	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,200	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,350	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,500	+25 0	+36 0	+25 0	+60 0
1,600	+25 0	+40 0	+25 0	+70 0
1,650	+25 0	+45 0	+25 0	+70 0
1,800	+25 0	+45 0	+25 0	+80 0
2,000	+25 0	+50 0	+25 0	+90 0
2,100	+25 0	+55 0	— —	— —
2,200	+25 0	+55 0	— —	— —
2,400	+25 0	+60 0	— —	— —
2,600	+25 0	+70 0	— —	— —

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4 箇所平均値とする。
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4 箇所のうち1 箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 接合時の測定は、原則として管内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm 以上に適用する。
 なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
 4. 管の外から測定する場合の測定位置は施工管理記録様式に示す a'b'c'd'とする。
 5. ダクトイル鋳鉄管のうち、K 形管・T 形管のジョイント間隔測定位置及びU 形管の標準値は下図の y 寸法である。y の測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。

K 形管



T 形管



(単位：mm)

規 格	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029		JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1029			
	8 管水路工事 T 形 (異形管)		8 管水路工事 U 形			
呼び径 (mm)	管理基準値		(参考) 規格値	標準値	管理基準値	(参考) 規格値
75	+11	0	+16 0	—	—	—
100	+11	0	+17 0	—	—	—
150	+11	0	+18 0	—	—	—
200	+10	0	+16 0	—	—	—
250	+10	0	+14 0	—	—	—
300	—	—	—	—	—	—
350	—	—	—	—	—	—
400	—	—	—	—	—	—
450	—	—	—	—	—	—
500	—	—	—	—	—	—
600	—	—	—	—	—	—
700	—	—	—	105	+23 - 5	+32 - 5
800	—	—	—	105	+23 - 5	+32 - 5
900	—	—	—	105	+23 - 5	+32 - 5
1,000	—	—	—	105	+23 - 5	+33 - 5
1,100	—	—	—	105	+23 - 5	+33 - 5
1,200	—	—	—	105	+23 - 5	+33 - 5
1,350	—	—	—	105	+23 - 5	+35 - 5
1,500	—	—	—	105	+23 - 5	+35 - 5
1,600	—	—	—	115	+24 - 5	+33 - 5
1,650	—	—	—	115	+24 - 5	+33 - 5
1,800	—	—	—	115	+24 - 5	+33 - 5
2,000	—	—	—	115	+24 - 5	+36 - 5
2,100	—	—	—	115	+24 - 5	+36 - 5
2,200	—	—	—	115	+24 - 5	+36 - 5
2,400	—	—	—	115	+24 - 5	+36 - 5
2,600	—	—	—	130	+24 - 5	+36 - 5

注) 6. JDPA G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

- ・ T 形及び T 形用継ぎ輪：300～2,000、K 形：300～2,600

JDPA G 1029 (推進工法用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

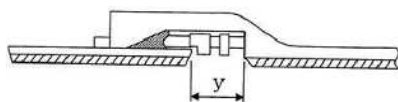
- ・ T 形：250～700、U 形：800～2,600

JDPA G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の T 形用継ぎ輪のジョイント間隔は、JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) の K 形に準じる。

7. JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) の K 形、U 形のジョイント間隔は、JIS G 5526 (ダクタイル鋳鉄管) の K 形、U 形に準じる。

8. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値及び管理基準値は標準値に対する値を示している。

U 形管



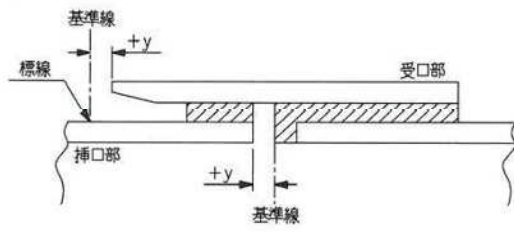
別表エ 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準値

（単位：mm）

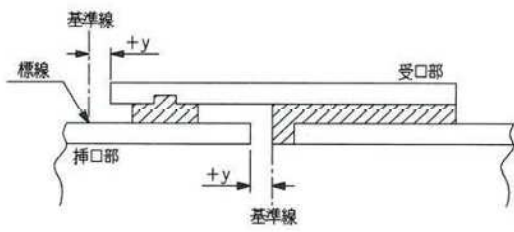
規 格	J I S A 5350						
	B 形、C 形 及 び T 形						
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値		(参 考) 規 格 値		
良 質 地 盤					軟 弱 地 盤		
200	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
250	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
300	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
350	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
400	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
450	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
500	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
600	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
700	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
800	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
900	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
1,000	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,100	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,200	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,350	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,500	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,650	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
1,800	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
2,000	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,200	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,400	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,600	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,800	0	+25	0	+128	0	+85	0
3,000	0	+25	0	+128	0	+85	0

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。
2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm以下の場合、管の外から測定してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。
なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。
5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を(+)とする。
6. 測定値は、受口部長さの製品誤差によりマイナスとなる場合がある。

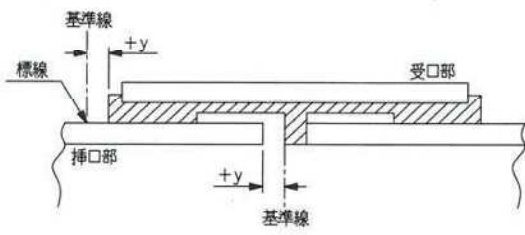
B形



T形



C形



別表オ 放射線透過試験による点検の項目と判定基準

(J I S Z 3050 A基準 準拠)

項 目	判 定 基 準
1. ルートの溶込み不良	目違いのない部分の溶込み不良は、1個の長さ20mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ25mm以下を合格とする。
2. 目違いによる溶込み不良	ルートの片側の角が露出している（又は溶融されていない）とき、1個の長さ40mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長70mm以下を合格とする。
3. 内面へこみ	内面へこみは、その部分の写真濃度がこれに接する母材部分の写真濃度を超えない場合は長さに関係なく合格とするが、超える場合には5の溶落ちと同様に扱う。
4. 融合不良	母材と溶接金属との間の融合不良は、1個の長さ20mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ25mm以下を合格とする。溶接パス間の融合不良は、1個の長さ20mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ30mm以下を合格とする。
5. 溶落ち	溶落ちは、いかなる方向に測った寸法も1個につき6mm又は管の肉厚のいずれか小さい方を超えることなく、連続した溶接長300mm当たり最大寸法の合計長さ12mm以下を合格とする。
6. 細長いスラグ巻込み	細長いスラグ巻込みは、1個の長さ20mm以下、幅1.5mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ30mm以下を合格とする。平行に並んだスラグ巻込みは、その間隔が1mmを超えていればそれぞれ独立したきずとみなす。
7. 孤立したスラグ巻込み	孤立したスラグ巻込みは、1個の長さ6mm以下、幅3mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ12mm以下を合格とする。
8. タングステン巻込み	タングステン巻込みは、J I S Z 3104 付属書4の第4種のきずの像の分類の4類以外を合格とする。
9. ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきず	ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきずは、J I S Z 3104 付属書4の第1種のきずの像の分類の4類以外を合格とする。
10. 虫状気孔	虫状気孔（パイプ）は、J I S Z 3104 付属書4の第2種のきずの像の分類の4類以外を合格とする。
11. 中空ビード	中空ビードは、1個の長さ10mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ50mm以下で、長さ6mmを超えるものは、50mm以上離れていなければならない。
12. 割れ	割れは、すべて不合格とする。
13. きずの集積	1から11までに掲げるきずの長さの和が管の円周長さの8%以下で、かつ、連続した溶接長300mm当たり50mm以下を合格とする。ただし2に掲げるきずを除く。
14. アンダカット	内面のアンダカットは、1個の長さは50mm、合計長さは管の円周長さの15%を超えてはならない。
15. きずの写真濃度	(a) 透過写真上の大きさと合格するきずでも、写真濃度が母材部の写真濃度より著しく高い場合には、不合格とする。 (b) 内面のビードの写真濃度が著しく低い場合には、不合格とする。

別表カ 塗覆装の方式及びその厚さ

種 別	塗 覆 装 方 式	最小厚さ (mm)
直管 テーパ付き 直管 異形管	【内面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管—第4部：内面エポキシ樹脂塗装 (JIS G 3443-4)」 溶剤形エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 (「農業用プラスチック 被覆鋼管 (WSP A- 101-2009)」による)
	【外面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管—第3部：長寿命形外面プラスチック 被覆 (JIS G 3443-3)」	2.0 mm以上
現場溶接部	【内面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管—第4部：内面エポキシ樹脂塗装 (JIS G 3443-4)」 溶剤形エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 (「農業用プラスチック 被覆鋼管 (WSP A- 101-2009)」による)
	【外面塗装】 「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート (WSP 012-2010)」	プラスチック系の場合 基 材：1.5 mm以上 粘着材：1.0 mm以上
<p>備考 1. 制水弁室、スラストブロック等貫通部の外面塗覆装は、原則としてプラスチック被覆とする。 なお、スチフナーについても同様とするが、同部の被覆厚さについては規定しない。 ただし、フランジ等外面部でプラスチック被覆の施工ができない場合は水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装とし、塗膜厚 0.5mm 以上とする。</p> <p>2. 継手部の外面塗覆装は、「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート (WSP 012)」プラスチック系を基本とする。なお、施工条件等やむを得ない理由により、プラスチック系が使用できない場合は、ゴム系を使用する。ただし、ゴム系の最小厚さは、1.5mm とする。</p>		

